

## 15. off ramp : 自動車通学の削減プログラム

トピック : 自動車により学校へ通学することを控えるよう呼びかける

### 特徴

学生の自動車通学の割合が極めて高いことが問題となってきたため、学校において自動車が環境に与える影響を学ぶ教育の機会を増やすとともに、NGO が主体となって学生達自身と力を合わせながら、徒歩や自転車あるいは公共交通機関を利用して通学するよう呼びかける運動を行っている。

#### <プログラムの背景・目標・内容>

カナダの‘Great Vancouver Regional District’では、両親の車に小さい頃から同乗するために、多くの子供たちが車を主な移動手段として見なしており、同地区で大学に車で通学する学生の割合は過去 10 年の間に 53%まで増加した。

そのため、大気の状態・人々の健康・環境・土地利用・生活の質に対して自動車が与える影響を若者に教育する必要性が高まってきた。

そこで、カナダの NGO である‘Better Environmentally Sound Transportation’ (B.E.S.T) は、学生に徒歩や自転車あるいは公共交通機関を利用して通学するよう呼びかける‘Off ramp secondary school trip-reduction programme’を開発した。(Off ramp とは、おそらく車の灯火のない、という意味であり、暗に車を利用しないという意味が含まれていると考えられる。)

このプログラムの目標は、自動車通学する学生の割合を 20%まで減少させることである。学生に交通問題をよりよく理解してもらい、自動車以外の通学手段を試してみようと呼びかけるイベントを学校で開催し、スクール・コミュニティーにおける sustainable transportation (持続可能な交通手段?) に対する障壁を取り除くことを主眼とする。

学生やプロジェクト・コーディネーターを中心に、彼らが教師と協力し、公共交通機関がひとつの選択肢としてあるということを教えたり、学校の校庭に安全な駐輪場を設置したり、安全な通学ルートをアドバイスしたり、自動車通学した場合とそうでない場合とをコストの面から比較したりして、実際のプロジェクト活動を進めている。

B.E.S.T によりこのプログラムが開発されてはるものの、スクール・コミュニティーにおいて戦略面で重要な役割を果たしているのは学生たち自身なのである。

#### <成果>

スクール・コミュニティー内部で実践しうる包括的な環境運動への要請に呼応して、‘off ramp programme’を通常の学校カリキュラムに加入しようとする努力がなされている。

・(仮訳)

・(出典) Synthesis Report of the OECD project on Environmentally Sustainable Transport EST presented on occasion of the International est! Conference 4th to 6th October 2000 in Vienna, Austria.